

## 自主的防災活動を担う自治会の活動

和光宿舎A・B棟自治会会長 豊留 廣志



和光宿舎A・B棟自治会は521世帯(24・5・13現在)28個班で構成され、建物はマンションタ

イプの14階建2棟から成り、自衛隊隊員および被扶養者で自治会を構成しております。我が自治会は会員の出入りは激しいですが、自治会への加入率は100%であり、平均年齢も若いです。校区に広沢小学校、和光第2中学校がありますが、その大半が自衛隊員の子供たちです。子供たちが多いことは活気があり、また子供の挨拶は元気をもたいます。我が自治会は防犯・防災に関しては仕事柄特に関心があり、どの自治会にも負けない知識と経験を生かしているものと自負しております。特に、昨年度からは防災

訓練に力をいれるとともに防災倉庫・備品の充実マニュアルの作成など広範多岐にわたって災害に備えるための準備を推進しているところでありまして。本年度も24年9月2日に防災委員の計画のもとに松本武洋和光市長、田上安男市議会議員、曾根田由貴子広沢小学校校長、和光市危機管理監広塚雅史氏、和光市自治会連合会のご臨席を賜り400人近い参加を得て防災訓練を行いました。今年度は昨年の反省を踏まえ役員が一目でわかるように各班毎のぼりを所持させ掌握が容易になったこと、小学校への子供の迎えをマニュアルに加え実践したことが特色としてあげられます。終わりの反省会では、市長をはじめ

めぐ来賓からご意見をいただき学校等の連携をさらに強化し、来年度へ反映することとなりました。災害はいつ起こるかわかりません。「備えあれば憂いなし」の言葉のとおり地道に準備していく必要があります。首都直下型の大規模地震が起きれば我々自衛官は災害派遣に出動しなければなりません。残るのは大半が奥さんに子供たちです。自分の身は自分で守ることが第1歩であり、そのためには、災害に対応する『心構え』を日頃から確立し、災害に関する知識を積み上げることが大事です。そして、日頃からつながりを持ち、お互いに協力できる態勢を作り上げることが次の段階であります。最近、人間関

係が希薄になっておりますが、何かあったときに助け合えるのは自治会であり、隣近所、地域の人々ではないでしょうか。我が自治会では、民生委員によるふれあいサロンで隣近所のつながりを作る努力をしております。また、青少年代表の計画で夏休みの2週間、朝はラジオ体操を行い子供たちの自主的参加を促すとともに、親子ふれあい清掃や地域の運動会への参加等でさらに学校と地域とのかかわりを持つよう努力しております。活気ある町作りと健全な子供の育成に少しでも貢献できるように自治会の活動を続けたいと思いますので和光市民の皆様今後ともよろしくお願い申し上げます。